

研究課題

たくましく生きる心と体を育む 健康教育と校長の在り方

I 趣 旨

子どもたちの体力低下が叫ばれて久しいが、それは依然として改善せず、現代的な教育問題であり、将来に渡って大きな社会問題とも言える。近年では、体格面での成長に比べ、体力・運動能力の低下や肥満傾向の増加や視力の低下、さらには「眠れない」「ストレスがたまる」等の精神的な問題も見られるようになってきている。

これらの背景には、社会生活・生活環境の変化が子どもの生活様式に大きな影響をもたらしたと考えられる。

空間、時間、仲間といった「三間の減少」により、外で体を動かして遊ぶ子どもが減少し、体力・運動能力の低下に拍車をかけ、子どもたちの健康面の問題を引き起こしている。また、便利になった生活様式の変化に伴い基本的な生活習慣や食生活の乱れ等の問題も生じている。

こうした状況の中で、子どもたちが自らの健康を適切に管理し改善する能力を培うことは重要な課題である。心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進や、望ましい食習慣を育むために学校と家庭がその役割を認識するとともに、相互に連携し合いながらその取組を進めていくため、校長が果たすべき役割と指導性を本分科会協議の中で明らかにしていく。

II 研究発表及び協議

1 研究発表

「健やかな心身を育成する

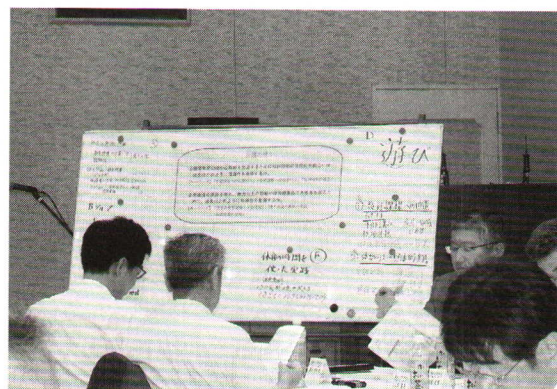
健康教育の推進と校長の指導性」

釧路市地区 釧路市立桜が丘小学校 室山 俊美

〈釧路市校長会の取組概要〉

平成25年3月策定の向こう5か年の釧路市教育の目指す施策概要や達成目標が提示された「釧路市教育推進基本計画」を研究実践の「出発点」と「帰着点」とした。

「健康」に関わる内容として「健やかな体の育成」が基本方針の一つとして示され基本方針に基づき「体育活動の充実」「食育の推進」「健康教育の推進」「防災・安



全教育の推進」の四点が施策の方向として位置づけられている。研修計画は、以下の通りとなっている。

- ①年次計画、研究推進計画策定。健康教育、食育指導についての実態調査。（平成26年度）
- ②各校の研究推進計画構築、実践。食育を中心とした実践計画。（平成27年度）
- ③健康教育の成果課題の明確化。「校長の指導性」の明確化。（平成28年度）

〈今年度の調査研究〉

各校の健康・体力づくりの現状と課題についての実態把握を内容とし釧路市内28小学校を対象に全連小研究紀要の調査と同じ項目で、健康・体力づくりの取組と課題について調査を行った。（1次調査の特徴的な内容を掘り下げ七つの視点に絞り、2次調査を実施する。）

【視点1】

「心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進」

- ①「健康教育の全体計画とそれらを推進する校内体制の構築、活性化」の取組では、学校経営の中に健康教育、体力づくりに関する全体計画や体力向上プランを作成し、数値目標の達成を目指すなど、全校的に様々な体育的活動に取り組んでいる。健康・体力に関する校務分掌の位置付けがなされ、児童の実態把握、実施計画さらに体育指導の研修等も組織的に進める体制づくりが行われている。課題として、教育課程において教科・特活等の関連を図った横断的な指導計画や学年の系統性を図る必要性、学校評価における次年度に向けた具体的改善策の十分な検討、体育的活動の日課表の位置付け、共通理解を図る校内研修等の必要性が挙げられる。
- ②「健康教育に取り組む教職員の意識高揚と体育授業の工夫改善」の取組では、日常的な運動の啓発、体育の指導技術の向上研修、体育授業の中での体力づくりが進められている。体育の授業改善から全校的な体力向上に発展させるための校内研修や各種事業の活用を校長として積極的に図っていく等に課題がある。
- ③「その他」として、児童の実態を保護者に積極的に知らせ、理解を深め連携を密にしていくことや体育専科教員活用事業が大変有効であることが挙げられた。

【視点2】

「望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実」

- ①「学校における食育指導の推進」では、多くの学校で指導時間の確保、指導内容の充実に心がけ全体計画も整備され、栄養教諭や外部人材も積極的に活用している。一方、横断的・総合的な指導や家庭・地域との具体的な連携や栄養教諭の数が限られている条件の下で、いかに指導内容の充実を図るかが課題である。
- ②「地域、家庭と連携した食習慣の改善」では、食生活、生活習慣について児童の実態把握に努めており、その改善のために関係機関との連携を図っていく必要がある。
- ③その他の取組としてPTA研修会での栄養教諭の講話など、連携、啓発に向けた取組が見られる。

【まとめとして】

児童の実態から健康に関してのマネジメントサイクルが確立されてきており、健康・体力づくりの学校経営への位置付け、教職員の意識高揚、授業の工夫改善、一層の各機関との連携等を、校長の指導性、リーダーシップのもと、確実に推進していくことが重要である。

2 研究協議

柱1・健康教育の確かな取組を推進するために校内体制の活性化を図るには、校長はどのように指導性を発揮するか。

・教職員の意識を高め、体力向上の取組や体育授業の工夫改善を図るために、校長はどのように指導性を発揮するか。

【グループ発表】

- 校長の意識改革が重要。教育課程への明確な位置付けで組織を動かし、地域を活用する等校長が明確なビジョンを教師、子ども、地域に発信する。
- 少年団活動参加・不参加等による体力の二極化、姿勢にも影響する体幹の衰え等、数値に基づいた実態分析と課題把握を全体計画を通して職員や保護者と共有。そこから授業改善や家庭の役割の発揮、人材活用につなげる。
- 学力等と比べると優先順位が低く、時間の確保が難しい学校の実態がある。意図的、計画的に体を動かす遊びを学校内外の生活に仕組んでいく。
- 実態把握を通して課題を職員に意識付け、全校で共通理解し、体力向上の具体的な実践を始める。
- 小中連携はもとより、域内での小小連携等も含む校種連携、家庭・地域との連携を積極的に図り、体育専科教師を所属校以外で活用するなど、学校の枠を越えた広がりも有効な手だてとなる。
- 業間・業前の取組ではなく体育の授業時間の充実を図る。体育専科の提唱による授業開始の3分間持久走＋足上げ腹筋等の取組から体力だけでなくメンタル面も強く

した実践、さらには担任と専科によるTT指導を通じた組織的な体育授業の改善が体力向上につながっている。

- 学校教育活動に位置付けた地域行事の活用、参加を通して学校外での体力づくりの定着や地域人材の活用。北海道の特性を生かした冬の活動を充実させる等地域性を生かし、組織全体の取組となるよう校長の考えを「見える化」させ、校長の指導性を発揮することが非常に重要である。

柱2・望ましい食習慣を形成する食に関する指導や家庭地域との連携した食育を推進するために校長はどのように指導性を発揮するか。

【グループ発表】

- 食に関する指導の全体計画を形骸化させることなく具現化及びコーディネートしていくことが校長の役割である。
- 人をつなげ、組織をつなげ、地域をつなげるためにも情報発信は大切であり、そこからさらにつながりが広がる。つなげることが校長の役割である。
- 栄養教諭は給食センター業務もかかえ、立ち位置が微妙な面もある。指導についても担任や養護教諭と連携を強化する必要がある。また、栄養教諭の配置には限りがあり、担任や養護教諭による他との関連をもたせた指導、全校給食や縦割りグループによる高学年からの指導等、食育は栄養教諭だけがするものではなく、共通理解にたつて栄養教諭がいなくてもできる食育を追求する必要がある。
- 人数的に限られた栄養教諭の力を有効に活用し食育を進める上で、市内で行われた食育指導の指導内容を市単位で集積し各校で共有したり、栄養教諭が作成した指導案をデータ化し担任等が自由に活用しやすいよう校内LANでつなげるような工夫をすることによって、栄養教諭の確保が不十分でも積極的な食育指導が可能となっている。
- 児童の実態を正確に把握しアレルギー対策をきちんと講じ、安全な食生活の環境を整えることも今日的な課題としてとらえていくことが大切である。
- 学校だけでなく、学校での指導内容の周知、啓発を行い、地域や家庭にも共通理解をもってもらい連携をとって進めることが大切。食育講演会、マナー教室、献立コンクール等の地域に根ざした実践は連携する上で有効である。

本分科会では、視点ごとに研究発表とグループ協議を行い、提言と協議がリンクされた有意義で活発な協議がなされた。グループ協議での各地で行われている児童や地域の実態に基づいた優れた実践を全体で交流し深め合いながら、更なる学校改善に向けた様々なキーワードを基に校長のリーダーシップの重要性を実感させられる

協議内容となった。

Ⅲ ま と め

【視点1 健康教育の推進】

〔校内体制の活性化〕

学校経営や教育課程の位置付け、校内体制及び全体計画等については、健康教育を学校全体の取組として推進していくために、経営方針に健康教育を重点として取り上げ、校長としてのビジョンを明らかにし、学校の中にも外にもしっかりと情報発信していくことが大切である。

そのためには、教育課程に明確に位置付けること、学校全体の取組にしていくことが大事である。そして、校長のビジョンを教職員に明確に伝えるために学校や児童が抱えている課題や実態を把握し、学校全体で課題を共有することが肝要であり、その課題を基に全体計画の中で具体的な取組を明らかにしていかなければならない。

全体計画の様式や記載内容については、各学校や地域の実情に応じて、そのプランが分かりやすく重点化されていることだが、新たな内容で作成していくというより、これまで各校で取り組んできた健康教育とか体力づくりの取組を整理したり、とらえ直したりして作成していくという考え方でよいのではないか。全体計画を作成することにより、機能させることこそ重要である。

〔意識高揚、体力向上に向けた具体的な教育活動〕

体力向上については体育の授業がその中核になり直接の指導に当たる教職員の力量向上が欠かせなく、体育専科の活用が有効的である。専門的な指導は、体育授業に寄せる関心・意欲の向上に資すると同時に担任とTTの授業、その打ち合わせ等を継続することにより、学校全体の授業力の向上に効果的である。日常的な研修の蓄積は、教職員一人一人の意識改革につながる。また、中学校教員の活用、外部から専門家を招いての研修、また学生やアスリートなど地域の人材活用等も有効な手段となる。

地域や家庭との連携・協力を密に行われている学校ほど体力平均値が高いということからも、家庭や地域との連携を密にし、地域住民や大学生、アスリート等外部人材を活用し授業を構築することは、児童に体を動かす楽しさを実感し、より高い目標につながる活動が可能となる。

視点1に関わる課題

- ① 健康教育の全体計画に示されている各教科・領域等の目標や内容が各学年・学級レベルまで反映され、具体的な取組としてその方策を位置付けること。
- ② 教職員一人一人の意識改革と資質向上を図り、組織的な教育活動の充実に向け、明確なビジョンや方策を明らかにするなど、校長としての強いリーダーシップが求められていること。
- ③ 体育の授業改善はもとより、体力づくり活動を日常

的に継続して行うために、各種行事や日課表の見直し等、活動の時間を確保すること。

【視点2 食育の推進】

〔家庭や地域と連携した食育の推進〕

学校や児童の取組だけではなく、保護者の意識を変えていくことが重要であり、その効果を高めていく上からもPTAや地域との連携を図り、継続的な取組となることが大切である。学校・家庭・地域が本来の機能を発揮し、その責任と役割を果たすために、その主体性と独自性を認めながらも、互いに連携・協力・補完し合っていく相互理解が必要になってくる。

視点2に関わる課題

- ① 望ましい生活習慣や食習慣は、今後大変重要な課題であるとの認識に立ち、指導の充実を図るため教科・道徳・特活・総合的な学習等の連携を図った横断的・総合的な教育課程を編成すること。
- ② 外部人材の活用等、限られた栄養教諭を最大限活用できる指導計画を工夫すると同時に、栄養教諭がいなくてもできる食育を展開できるよう、関係機関との連携や指導案の集積活用を図るなど、具体的な取組の工夫をすること。
- ③ 校長はこれまで以上に家庭・地域や関係機関との連携に向けた情報発信を行い、互いに連携・協力・補完し合う取組に発展させること。

「第10分科会に参加して」

釧路市立美原小学校 森 川 浩

日高に向かう道すがら遠くに低く立ちこめる黒い雲に不安を抱きつつ車を走らせましたが、海岸線まで出ると行く雲の合間から日差しがこぼれておりました。ほっとしました。

私は健康を課題とした第10分科会に参加しました。釧路地区の提言に基づき、グループごとに熱心な話し合いが展開されました。学校規模や環境の違いはありますが、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちを育む熱い気持ちは誰もが同じ。各校の実践が盛んに交流されました。視点1の健康教育では、教育課程に位置付け視覚化する中で校長としてのビジョンを発信していくことや、体育授業における力量の向上、外部講師の積極的な活用など多くの課題が出されました。また視点2の食育では、子どもたちだけではなく保護者・地域を巻き込んだ講演会、地域人材を活用した栽培学習、家族ぐるみでチャレンジする献立コンクールなどの実践が紹介され、いかに学校と家庭とが共通認識を持てるかが大きな鍵とお互いの理解を深めました。子どもたちの健やかな成長を願う熱い思いを感じ取るこののできた話し合いであったと思いました。